

歸去之間件火成此災近年天子上皇皆好鳩給長房卿保教等本自養鳩得時而馳走登舊塔鐘樓  
求取鳩此事遂以滅社稷嗟乎悲哉例幣□□大宮大路只有灰燼之跡無人家京洛之塵滅尤可奇  
驚事也是又非鳩一事只國家之衰微歟

〔運步色葉集字〕鴛合

〔日次紀事臨時〕鴛合

〔看聞日記〕永享七年五月一日早朝鴛合一方不鳴無興也三日朝鴛合行豐朝臣重賢持參行豐朝  
臣鳥勝

○按ズルニ鴛會ノ事ハ動物部鳥篇ニ載セタリ

〔日次紀事臨時〕鴛合

〔山家集下〕八條院の宮と申けるをり白河殿にてむしあはせられけるにかはりて虫入てとり出

しける物に水に月のうつりたるよしをつくりて其心をよみける

行するの名にやながれん常よりも月すみ渡る白川の水

〔閑窓自語〕弄蜘蛛語

土御門故二位泰邦卿かたられけるは享保のはじめ世に蠅とりぐもとかやいふ虫をもてあそ  
ぶ事あり風流なるちいさき筒に入れて蠅のいる所へとばせてとらしむ一尺二尺など遠くと  
ぶをもて最上とすよくとぶ蜘蛛はあまたのこがねにかへてあらそひもとめ蜘蛛合をし博奕に及  
ぶのあいだ武家より制してやめしむとぞ世にめづらしきもてあそびもありけるなり

〔倭名類聚抄四〕鬪草 荆楚歲時記云五月五日有鬪百草之戲鬪草此間云久佐阿波世

〔白氏文集十〕觀兒戲

韶齡七八歲綺紈三四兒弄塵復鬪草盡日樂嬉嬉堂上長年客鬢間新有絲一看竹馬戲每憶童駉

鴛合

鴛合

虫合

蜘蛛合

鬪草